

吉永小百合・坂本龍一 朗読会

表題は朝日新聞 5 月 13 日朝刊「核といのちを考える」から。

平和を願う小さな集会。初めて読み上げた原爆の詩に胸打たれ、「読み続けていかねば」と思った。

それから 30 年。俳優の吉永小百合さんが 3 日（日本時間 4 日）、カナダ西部のバンクーバーで原爆の詩や原発事故に見舞われた福島の人々の詩 12 編を朗読した。吉永さんとピアノ伴奏した音楽家の坂本龍一さんが次世代へ伝えたのは、「核なき世界」への願いだった。

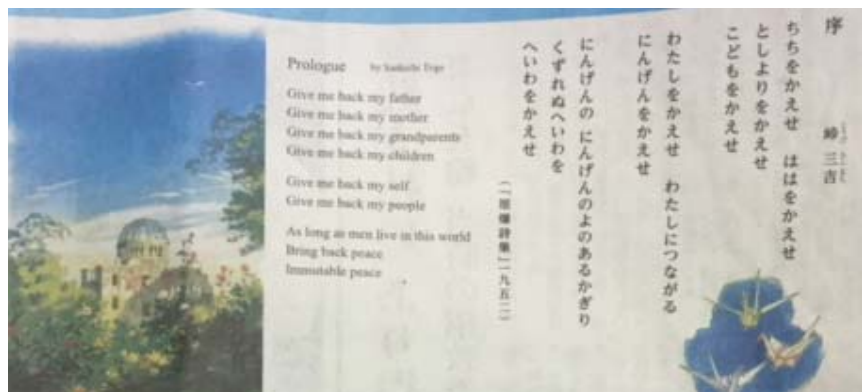
朗読会は「The Second Movement in Canada (カナダにおける「第二楽章」)」と題し、ブリティッシュコロンビア大学 (UBC) で開かれた。核兵器と原発による「核」の被害を受けた日本から発せられたメッセージ。聴き入った学生ら約 200 人は様々な思いで受け止めた。

ちちをかえせ

ははをかえせ

原爆詩人・峠三吉の「原爆詩集 序」を読み始めた吉永さんの声が、静かに、そして、ゆっくりと広がって

いく。日本語に続いて、英語でも朗読した。一つ一つの言葉が学生らの心に刻まれるように、その声は会場に響きわたり、染み込んでいった。



(2016 年 5 月 16 日)